

共働き・親同居による生活リズムの違い 子育て家族の住まい方調査(2)

生活時間 二世帯住宅 共働き家族
家事協力 育児協力

正会員 ○松本 吉彦 *1
同 伊藤 香織 *1
同 添田 昌志 *2
同 古賀 蘭子 *3

1. 調査の目的

子育て家族の生活リズムにおいては、共働きや親同居の影響が多くあるものと推測される。本研究では、近年の子育て期の夕食や家事の生活リズムにおいて、それらの実態を把握することを目的とする。

2. 調査の対象

前報と同様に、ハウスメーカーA社の建設した戸建て注文住宅の居住者を対象にメールを送付し、アンケートサイト画面で回答を依頼した。本報における分析対象は同居の子がいる夫婦で、夫が49歳以下の場合に限定した。妻の就業形態と親同居、子の学齢との関係を表1に示す。

表1: 調査対象の概要

妻の就業形態→ 子の学齢↓	専業主婦世帯		共働き世帯		計
	n	%	n	%	
核家族	206 (107)		58 (28)		264
(内) パートタイム	60 (33)	29.1	-	-	
小学生が居る	94 (47)	45.6	26 (13)	44.8	
中学生が居る	53 (24)	25.7	17 (9)	29.3	
親同居	34		18 (4)		52
(内) パートタイム	15 (6)	44.1	-	-	
小学生が居る	16 (9)	47.1	9 (9)	50.0	
中学生が居る	13 (8)	38.2	4 (1)	22.2	
計	240	()は追加調査n	76		316

調査方法: 戸建て注文住宅居住者に対する Web アンケート
調査時期: 2008年3月(夕食関連の家事参加については同年7月に追加調査)
調査エリア: 関東~東海~関西~山陽~北九州の各都府県
妻の就業形態: 専業主婦世帯にはパート勤務を含む。
親同居: 同居の親が夕食を同じ場所で取る場合に限定し、食事場所が分かれている二世帯同居は核家族として扱った。

3. 共働き・親同居による帰宅・夕食時間の違い

夫の帰宅時間における「21時以降帰宅あり」の率では共働きや親同居による差は小さい(図1)。専業主婦世帯においては、妻のパート勤務は核家族29%に対し親同居は44%と多く妻の帰宅時間も遅くなる傾向がある(図2)。共働き世帯の場合、妻は18-21時の間にほとんどが仕事から帰宅しているものの、親同居の方が帰宅が不規則である率が高い(図3)。専業主婦、共働きに共通して、親同居により帰宅時間の制約が緩くなる傾向が見られる。子の帰宅時間は核家族の共働き世帯では専業主婦世帯や親同居の場合と比較して18-20時の比率が高まり遅めの傾向がある(図4)。夕食については、専業主婦世帯では約8割が分散しているが、核家族の共働き世帯の夕食は一緒に食べる率が高い(図5)。子の帰宅が遅いため夕食が19時前になりにくく、夫の帰宅時間が21時以前であれば全員一緒に夕食が取れるためであろう。親同居の専業主婦

世帯は核家族と比べ19時前、21時後の夕食が共に少ないが、夕食分散率は8割で変わらない。同居の親と子の生活リズムに合わせて夕食の時間が決まり帰宅の遅い夫の夕食が別になりやすいと推測される。親同居の共働き世帯も夕食分散率が高く、夕食時間の傾向は専業主婦・核家族のそれに近い。生活リズムが同居の親の影響を強く受け、共働きの妻の帰宅時間の影響が弱まると考えられる。

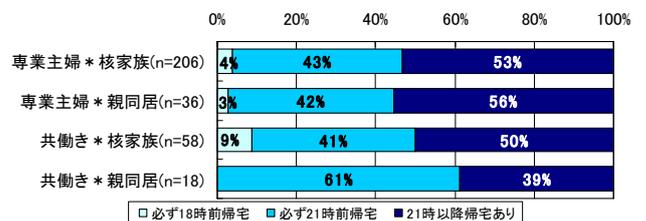


図1: 夫の帰宅時間

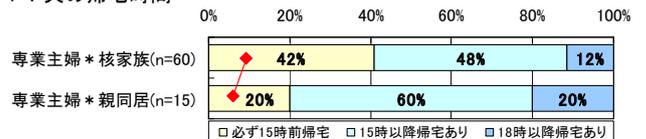


図2: 妻の帰宅時間-専業主婦世帯・パート勤務者

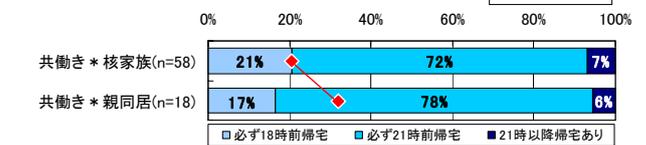


図3: 妻の帰宅時間-共働き世帯

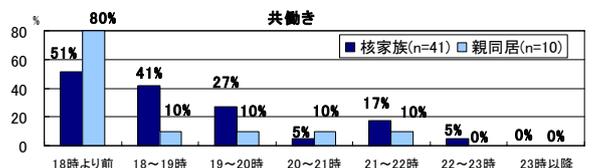
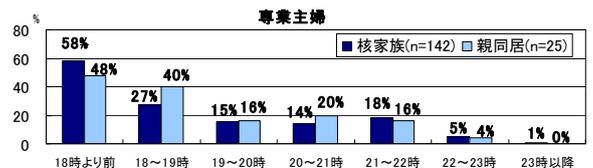


図4: 子の帰宅時間分布(複数回答)

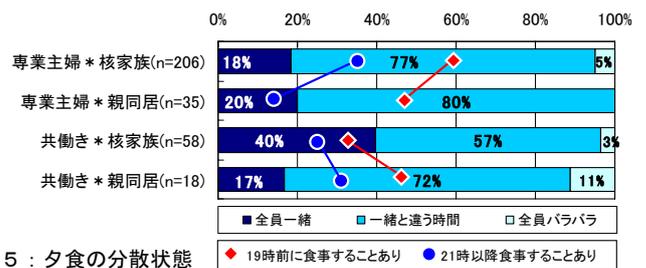


図5: 夕食の分散状態

4. 共働き・親同居による夕食調理への影響

夕食の主な調理者の設問に加え、その手伝いや中間調理（電子レンジ等によるあたため）、片付けへの家族の参加を調査した。共働き・核家族世帯は専業主婦世帯に比べ夫が調理する率が2割と高い。また、親同居の場合は専業主婦世帯、共働き世帯を通じ、同居親が調理をする比率は高い。特に共働き世帯では妻よりも母親が主調理者であることが多く、夫が調理するケースはなかった(図6)。同居の母親が専業主婦の役割を担うため、専業主婦世帯の役割分担に近づくのであろう。また、同居親が調理者となるケースは夫の母、妻の母ともに見られる。

核家族における夫の夕食準備の手伝い、中間調理、片付けへの参加は共働き世帯が主調理と同様に高く、核家族・共働き世帯の夫は協力傾向が強いと言える。小学生、中学生共に共働きの方が中間調理への参加が多いが、片付けへの参加は専業主婦世帯も含め約9割と差がない(図7)。核家族・専業主婦世帯における夕食準備の手伝いについて、キッチン「手元が見えるかどうか」という視点でオープンとクローズの2群に分けてみると、子はオープンキッチンの方が手伝う率が高い(図8)。

5. 共働き・親同居による洗濯行為への影響

専業主婦・核家族世帯では夜洗濯している世帯が夜あり、夜のみの合計で約5割あり、夜洗濯が一般化したことを示している(図9)。共働き・核家族世帯では夜洗濯の比率は8割を超え、夜のみの洗濯のケースも約4割ある。

親同居により、専業主婦世帯は夜のみの洗濯が若干増え、逆に共働き世帯は朝のみ洗濯のケースが大幅に増える。同居の母親が朝洗濯をすることが多く、専業主婦世帯の場合は子世帯が親世帯の洗濯時間との競合を避けるため夜洗濯が増え、共働き世帯の場合は母親が子世帯の洗濯を引き受けて同時に行うため夜洗濯が減ると考えられる。

6. まとめ

共働き世帯・核家族では専業主婦世帯と比較し下記の特徴が見られた。

- 1) 子の帰宅時間が遅く家族の帰宅時間が近い。
- 2) 夕食一緒の比率が約4割と比較的高い。
- 3) 夫や子の調理参加が多い傾向が見られる。
- 4) 洗濯時間は夜間が多く、夜のみの洗濯も4割以上ある。

上記の特徴は共働き世帯・親同居の場合は薄まり専業主婦世帯の生活リズムに近づく。同居母親が主婦役となるためと考えられる。逆に専業主婦世帯では親同居により、妻のパート勤務者が増え、時間も長くなる等、共働き世帯の生活リズムに近づく傾向が見られる。

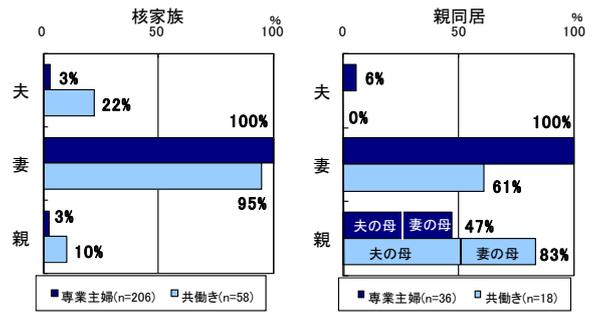


図6：夕食の主な調理者（複数回答）

<家事参加の自由回答の例>
 ●平日は子供がご飯を炊いてくれる。私の帰宅が20:30と遅いので・・・箸を並べたり、お茶を入れたり子供役目。妻は調理を手早く行う。(共働き核家族・30代女性)
 ●私がおもっと遅く帰宅するので、先に食事をした家族の流しに貯め置きと合せ、食器洗い機にセットし、また食器洗い機に入りきれない調理器具等は同時に流しで洗う。翌朝所定の収納場所へ私が片づける。妻に負担を掛けすぎないためのせめてもの分業です。(共働き核家族・40代男性)

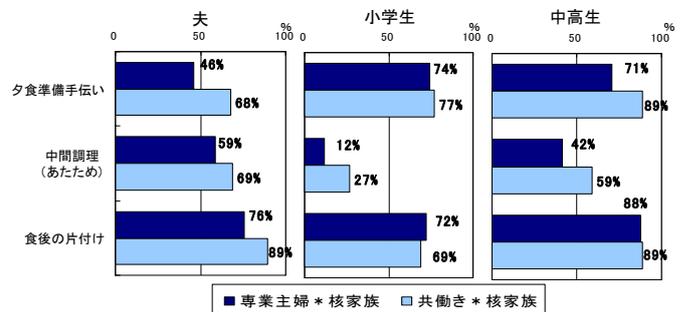


図7：夕食関係の家事への参加（複数回答）

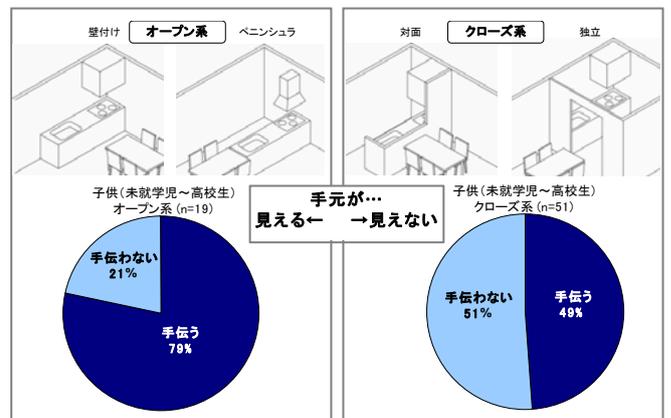


図8：キッチンのオープン/クローズによる手伝い参加の差

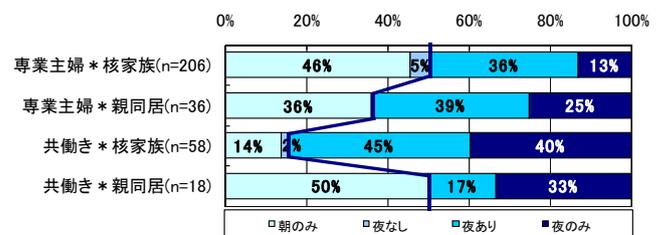


図9：洗濯することのある時間帯

* 1 旭化成ホームズ 共働き家族研究所
 * 2 LLP 人間環境デザイン研究所
 * 3 (株)環境計画研究所

* 1 Asahikasei Homes Co. DEWKS Laboratory
 * 2 LLP Human Environment Design Laboratory
 * 3 Environmental Planning Laboratory inc.